

小学校の「英語活動」に勇氣ある改善を！ 武田良則、学院長

公立小学校に外国語活動が導入されてもうすぐ1年。北九州市の小学校で10年間英語の公教育に関わった経験から、福岡市の「英語活動」に関心を持って見てきました。多くの学校は文科省作成の「英語ノート」を教材として指導してきましたが、各学校において、活動形態や指導方法等は様々ではありません。ALTの配置や活用法も違ってきます。残念ながら、カリキュラムや指導法に福岡市のスタンダードが見られません。この問題は福岡市教育委員会学校指導課も認めています。

この4月から、「英語ノート」に代わって、「Hi, friends!」が登場します。新聞報道によると、会話の場面を入れることで、コミュニケーション力を重視する内容が増えるようです。私は、昨年2度にわたり福岡市の高島市長に「よりコミュニケーション力な英語プログラム」の導入を提言してきました。残念ながら、教育委員会学校指導課からの回答は、文科省の学習指導要領に沿って指導しているので、変更することはできないとの事でした。福岡市の英語教育は10年以上前から始めた韓国や台湾、中国、国内では8年前から始めた長野県の下諏訪町（特区）や6年前から始めた茨城県の鹿島市（特区）に大きく遅れをとっています。現状のままであれば、その差は開くばかりです。

1月9日の朝日新聞に「小学校の英語」に関して、ある小学校の教頭先生の意見が掲載されました。彼は、英語授業はおもしろい、聞いていたら分かった、もっと聞きたい、話したい、人と触れたいというエネルギーが大切だと主張しています。全く同感です。人は何故話すのでしょうか？人は何故質問するのでしょうか？人は何故答えるのでしょうか？人は、自分の気持、意見や情報を伝えたいから話すのです。関心や興味があるから質問するのです。答える状況や必要があるから答えるわけです。よりコミュニケーション力な教材、プログラム、指導法を考える場合は、これらのポイントを重視すべきだと考えます。自分の本当の気持を伝えるのが対話の原点だと思います。また、その内容は年齢にあった知的内容が大事だと思います。

小学校の「英語活動」担当の先生方へ

我々大人は、子供たちの限られた時間を有効に使って指導する責任を担っています。周囲の大人がそれを上手に引き出せば、子供の能力は短期間に素晴らしく開発されていくものだと思います。しかし、大人がそれに対して無知であったり、やり方を間違えたりすると、能力が開発されないまま成長するように思います。

コミュニケーション力を身につける教材作り、カリキュラム作り、ティーチングプラン作り、指導法など、一緒に勉強しませんか。私の経験、ノウハウが少しでもお役に立てれば幸いです。参加ご希望の方は、武田か渡邊までご連絡ください。参加をご希望される方が2～3人集まり次第、スタートしたいと願っております。(グリーンウッド：092-534-3311)

保護者の皆様へ

小学校の「英語活動」の改善を希望されている学校や先生をご存知であればご紹介ください。